

かがやきで大切にしたいこと

だれもがみんなにそれぞれ、ちがった凸凹があります。
みんなが認め合い、つながる。
そんな場所に、かがやきはなりたと思っています。

そう
だん
し
な
が
ら

①じぶんの凸凹をしる

凸凹...とくい と にがて のこと



はなすことは
とくいだけど...

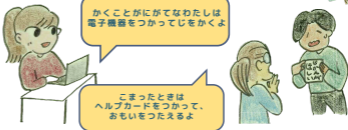
かくことは
にがて...

じぶんのベース
ならでできるけど...

まわりにあわせる
ことはにがて

②じぶんにあった やりかたをしる

こくばんのじをみるために
めがねをかけるように...



③ひとやしゃかいとの かかわりかたをしる

これならできそう！をふやす

できない...
できない...

ではなく

できないから
やらない!



コマクナー コカクナー



かがやきは 連光寺小のみんなにひらかれている

特別支援教室

「かがやき」について

連光寺小学校には「特別支援教室」が設置されています。令和元年より多摩市は市内全小学校に「特別支援教室」が設置され、市内の各学校に常設される教室となりました（令和4年度より巡回指導）。本校では今年度の担当教員3人、専門員1人の構成です。連光寺小における「特別支援教室」にはどのような目的があり、どのような考え方を大切にしていきたいか簡単に紹介します。

「かがやき」で 大切にしたいこと

人の成長は一人一人千差万別です。器用さや不器用さ。得意や不得意。いろいろなことができるまでに時間がかかったり短い時間でできたり、何かを学び成長していく「型」や「方法」は人それぞれ違います。しかし、私たちの社会の中では「生活」をしていくために好むと好まざるとにかかわらず、「一般的に」や「常識的に」「大多数の人がわかるやり方」という言葉に当てはめたやり方（型）を多く使って「生活全般」や「学習」について学ぶ場面が多くあります（学校もその一つですね）。一方、世の中には個々の感じ方や感覚の「ちがい」や「差」から、いわゆる「多数派」の考え方や学び方ではない方法をもっている人も当然います。しかし、人によっては学校や社会の中で自分自身の「学び方のちがい」「感じ方のちがい」「得意や不得意」について気が付きにくかったり、理解しづらかったりする事があります。（＊こうした「ちがい」や「差」があることは人としても当然のことであり、多かれ少なかれ私たち全ての人に当てはまる事でもあり、誰の中にもある感覚の「凸凹」とも考えられます）。ただ、この「ちがい（「凸凹」「特性」と呼ぶこともあります）」に「自分自身」や「周囲」が気が付きにくいことで、自分本来の良さが生活の中に生かされにくかったり、意図しない失敗が続いたり、自信を無くして苦手なことが増えるなどしてしまう。自分の毎日の生活や学校での学習そのものが楽しめなかったり、不安や心配になってしまったりすることは誰も望むところではありません。

「特別支援教室・かがやき」では、こうした自分の中にある「ちがい」について子どもたちと一緒に考えて自己理解のきっかけを作ったり、どのようなやり方が自分に合っているのかを考えたりしています。そして、自分自身のことを知りながら、自分の学級でどのようなやり方で人とかがわり、生活、学習していくのが良いのかを学びます。（同時にどのような「支援」「かがわり」が家庭や教室環境にあればいいか、双方の立場から学ぶことを目指します。）自分の「ちがい」について適切に理解して自分自身への肯定感を育てたり、自信につなげたりしながら子どもたちが教室に参加し、生活していくことを目指しています。大人でも自分の良い所を知っていると自分への肯定感もてますね。

また、同時に大事にしていきたい「思い」は、この教室は「かがやき」を利用している子だけが学び、かかわる教室ではないということです。「かがやき教室」は常に学校全体に開かれてもいます。利用する子以外のお子様のものであっても自分の「ちがい」や学校生活や学習、友だちとの関係等、何か心配や不安があればいつでもとなり「かがやき」があり、一緒に考えていける「教室」であるということです。つまり、「特別」でありながらも「特別」な場所ではないということです。私たちはこの「思い」を大事にしながら連光寺小学校という社会の中に「特別支援教室」があることの意味を「自然」なこととして、学校全体でさらに深めていければいいと考えています。

連光寺小学校にかかわる全ての人が、「ちがい」や「差」という人間の「多様性」や「凸凹」についてそれぞれが認め合いながら学び、ともに成長できる「場」になれるようにみなさんと協力しながら進んでいきたいと思えます。

＊かがやき教室についてさらに詳しく知りたい方はお気軽に教職員に声をおかけください。

文：SO（かがやき教員）

絵：FN（かがやき専門員）